

酒造用掛け米としての「まいひめ」の栽培法

福島県農業試験場冷害試験地・平成7～10年度春夏作試験成績概要

1 部門名 水稲－水稲－施肥法・品質・食味 01-01-13270000

2 要 旨

(1)20分間の吸水率、吸水率比は年次間差が大きく、平成7年度はともに大きい。

(2)消化性の内、直糖は各年次とも適正範囲の値であるが、年次間差もみられる。

(3)フォルモール態窒素は適正範囲より低い値であり、年次間変動が大きい。

(4)粗タンパク含量は平成7年は適正範囲を越えたが8年、9年は範囲内であった。年次内での変動は3.5%程度であるが、窒素施用量の増加により増加が認められる。

(5)カリウム含量は適正範囲より低く、カリの追肥でも大きな増加は認められない。

(6)収量は、a当たり総窒素量が1.0kg程度で停滞し、0.6-0.2-0.2または0.8-0.2の施肥効率が高い。以上より、酒造加工適性の中でも重要な、粗タンパク含量が窒素施肥量の増加により増加し、収量もa当たり総窒素量が1.0kg以上では停滞することから掛け米栽培においても多肥多収栽培は控えるべきと考えられる。